

## ホトケドジョウが水路に、繁殖の可能性大

### 田んぼ周辺は「野生の小王国」

田んぼ観察録 = 09年4月～10年4月

★★★先週の観察メモ=09年4月11日、快晴★★★



ドジョウが「こんにちは」=齋藤英毅さんがスマレ田んぼで溝を掘っているとき、出て来た。お腹が赤みを帯びたホトケドジョウ、体長10センチ余り。湿った泥の中で、ちゃんとエラ呼吸していたのだろう。森田薫子さんは写真を撮り、真生ちゃんが貯め池に放した。

カエルもお目覚め? = 大

橋さんがサクラ田んぼで田起こし中、泥のなかから出てきた。体長 5センチほど。田

んぼ周辺で「コロロ、コロコロ」というシュレーゲル・アオガエルのラブコールが聞こえ始めた。あの泡状の卵塊が次回あたり、見られるかも。



★★★先週の観察メモ=4月15、18日晴れ★★★

シュレーゲルアオガエルも産卵：齋藤英毅さんがスマレ田んぼで田起こし中、泥の中の泡状の

卵塊に気づいた(18日)。隣接のヤマユリ田んぼ(旧不耕起田)の畦際に移した。アオガエルのラブコールが続いているから、野村さんの予想どおり、産卵が続くことだろう。



シマヘビが健在：15日昼、中央排水路近くに。2年前、スマレ田んぼを開墾中に、同じような場所に出て来て、齋藤裕子さんが素手で、むぎゅっと捕まえたやつだろう。体長3メートル余り。カエルの卵やドジョウを食べに出て来たのだろう。



### やや少ないが25塊……ヤマアカガエルの産卵

ヤマアカガエルの産卵に最初に気づいたのは、大屋さんが2月1日にヤマユリ田んぼで。その後、野村さんが小坂さんといっしょに、観察を続けた結果が、次の表だ(数は卵塊)。卵塊が合計25。去年の35より少ないが、その前年の07年に比べれば、1.5倍に増えている。

2月 8日：貯め池3、ヤマユリ1、田んぼ下流の水田跡1、  
入り口近くハス田跡3

14日：貯め池3、ヤマユリ3、ハス田跡2

21日：ハス田跡5

24日：ハス田跡2

3月14日：ヤマユリ1、スマレ1 (4月18日現在)

# シュレーゲルアオガエルの産卵続く

★★★先週の観察メモ＝5月3日、薄曇り★★★

シュレーゲルアオガエルと卵塊が作業中に次々に＝田んぼに水を張ったら、畔つけ作業中に、野村さんの集計では6匹があちこちで姿を現した。鮮やかな緑色、体長3センチぐらいの小型だったので、オスらしい。1匹はなんと、大屋さんの長靴をよじ登って、ズボンに達した。繁殖期を過ぎると、上陸して林に入り、樹上で暮らす。登るのは得意なのだ。

このカエルの泡状の卵塊も、サクラ田んぼで6つ、ツクシ田んぼで3つ見つかった。半分ぐらいはすでに孵化したあとで、水の中でオタマジャクシが泳いでいた。作業後も、シュレーゲルアオガエルのラブコールが無人の田んぼに響き渡った。産卵はまだ続きそうだ。

レンゲ田んぼの畦にレンゲ咲く＝ヤマユリ田んぼの畦には早くから咲いたが、やっとレンゲ田んぼの畦にも＝写真右。田んぼの中には水を張ったので、咲くのは見られそうもない。

居着いた？ カルガモのペア＝私たちの作業中も、貯め池やヤマユリ田んぼでせっせと餌を漁り、畦を通っても平気な顔をしている。ときどきスマレ



田んぼに移動し、泥の上に座りこんで毛づくろいしたり、フラミンゴみたいに片足立ちして居眠りしたり＝写真左。

この2羽は田んぼ周辺を、縄張りと思っているらしい。



## 産卵続く——シュレーゲルアオガエル

★★★先週の観察メモ＝5月9日、快晴★★★

シュレーゲルアオガエル8匹、卵塊11＝先週に続き、畔つけ作業中に8匹も現れた。スマレ田んぼ東畦のノリ面に穴を掘り、その中に4匹。メスをオス3匹が囲んでいたようだ。同じ田んぼの北畦寄りに、こんどはオンブ

バッタ状態の2匹。上が3、下が5センチぐらい。

泡状の卵塊も続々。そのたびに、「野村さん、また卵」と声が上がる。野村さんが疲れて「紀ちゃん、お願い。卵を運んで来て」



## シマヘビの2匹目、ヤマカガシが姿を見せた

★★★ 先週の観察メモ＝5月23日～24日 ★★★

23日の作業開始前、シマヘビがスマレ田んぼとヤマユリ田んぼの間の畦沿いに。4月の15日に中央排水路にいたのより、ふたまわりは小さく、体長2メートル程度。貯め池方向の草むらに姿を消した。翌24日午後、レンゲ田んぼの東畦沿いに、背中が黒っぽいヤマカガシ、体長約2.5メートル。2年前、ほぼ同じ場所で見たとより、ふたまわりくらい大きい。生長したのか。

## 山沿い水路にホトケドジョウ（絶滅危惧種）が！

★★★先週の観察メモ＝6月13日、曇り★★★

山裾沿い水路の底さらえをしていた小坂さんが、貯め池の少し上流で発見、素手で捕まえ、近くにいた野村さんが常備している白いボールに入れた＝写真右。ヒゲが8本だけ（他種のドジョウは10本）で、体長5センチぐらい。

竹ヶ谷の二本橋付近に繁殖しているホトケドジョウを長年、観察・保護している野村さんの見立てでは、生後3年ぐらいのメスだろうという。

ホトケドジョウはかつて、田んぼの灌漑用水路に多く繁殖していたが、農薬の使用とともに激減した。高水温を好まず、いまは農薬や家庭排水の影響が少ない、湧水を水源とする流れにしか見られなくなり、絶滅危惧種に指定されている。

広町緑地では、二本橋付近の繁殖が早くから観察されてきたほか、物置裏の流れにも生息していることが確認されている。さらに、野村さんが昨年8年3月、田んぼ横の御所川で3匹を発見した。ただし、数が少なく、人手で運ばれた可能性を否定できないので、繁殖しているかどうかは未確認。山沿い水路での発見も、繁殖確認とはいえないが、水は最も良質だし、私たちの活動で通年、流れが絶えないので、繁殖を期待したい。

翌年、この水路と接続している別の水路でも、もっと小型のホトケドジョウが確認された。田んぼ周辺の水路が、ホトケドジョウのもう一つの繁殖場所になっていることが確実にされた。



## 樹上から!? オタマジャクシ

……モリアオガエルがクワの枝に産卵

★★★先週の観察メモ＝6月20日、晴れ★★★

レンゲ田んぼ北畦に茂っているクワの枝に、白っぽいものが引っかかっている。いびつな球形。ビニール袋が風で飛んで来た？……と思ったら、何とモリアオガエルが産みつけた卵＝写真左の画面中央。齋藤英毅さんが気づいた。

やがて孵化してオタマジャクシになると、2メートル余り下の田んぼにポチャ、ポチャンと落ちる。そしてカエルになる。

## ドジョウの稚魚も、ちょろちょろ

ホンドドジョウの稚魚がレンゲ、ツクシ田んぼに数百匹。体長1～2センチと小さすぎて、まだ撮影できない。1週間前にもちょろちょろしていて、野村さんは「何だろう？ メダカがいるはずないし……」と気になっていた。5月下旬に生まれたと思われる。

その2田んぼでは、ヘイケボタルの餌になるサカマキガイも、稲株の根元に。また、真紅のショウジョウ（猩々）トンボが、ツクシ田んぼ西の畦に姿を見せた＝写真右。

